

第3回第3次都城市総合計画策定市民委員会

(健康・福祉・こども・教育) 議事録

【日 時】令和7年8月21日(木) 14:00~15:30

【場 所】都城市役所南別館4階 第1会議室

【出席者】市民委員会委員(健康・福祉・こども・教育)10名(2名欠席)

事務局 総合政策課長、総合政策課職員

該当部局総括

1 協議事項

協議(1) 基本構想(案)における質疑応答

① 学校運営と地域連携について

・ 学校運営協議会は県内でも早期に導入され、約10年継続している点は他地域から評価されている。学校と地域の協働を推進する文言を入れてほしい。

② 市民協働について

・ 都城市市民公益活動協働推進計画に沿って協議を進めるような文言にしてほしい。

③ 福祉の充実について

・ 団塊の世代が後期高齢者になることへの懸念があったが、数的には足りているとの回答で理解できた。

④ 地域コミュニティについて

・ 自治公民館加入活動参加への促進条例を市民に広報し徹底することが重要。条例の存在自体を知らない市民が多い。

・ 各自治公民館の取り組みや民間団体の活動の中で条例を話題にすれば、住民に浸透し公民館加入につながるのではないかな。

⑤ 働く環境について

・ 現役世代が働ける環境づくりが必要。

・ 外国から来られる方が単身や家族で来られる場合、職場での馴染みやすさが課題。

・ 子どもの教育環境について、クラスサイズと教員配置の問題がある。移住者や外国人家族が増えている中で、学校の定員数などを再検討してほしい。

⑥ 多様な支援が必要な児童について

- ・ 小学校では多様な支援が必要な児童が増えており、教員が困難を抱えている。

協議（２）意見交換「都市目標像について」

① 都市目標像に関する意見

- ・ 「人が繋がり笑顔あふれる南九州のリーディングシティ」が良い。「スマイルシティ都城」という表現が以前から使われており、シンプルな方が良い。
- ・ 「人が集い、人を育み、挑戦する南九州のリーディングシティ」という案も提案された。人が集うことで地域コミュニティで笑顔になり、人を育むことで多様な学びや人材育成につながり、日本一への挑戦に結びつく。
- ・ 「幸せ上々都城」のような短めでわかりやすい表現も検討してほしい。
- ・ 「人が集い人を育み、笑顔あふれる南九州のリーディングシティ」という折衷案も提案された。
- ・ 「挑戦する」というキーワードは、新しいことだけでなく困難な時代の課題に果敢に取り組むという意味を含めて重要。
- ・ 「笑顔あふれる」「人が集う」「挑戦する」の三つのキーワードが大事。コンパクトで適切な表現にすべき。
- ・ 若者には短い方が伝わりやすく、残りやすく、届けやすい。
- ・ 言葉の受け止め方は世代によって異なるため、今の世代の子どもたちにも通じる言葉選びが必要。

協議（２）意見交換「基本構想に関して」

① 国際化・多文化共生について

- ・ 外国人住民が増加しており、小学校でも異なるルーツを持つ子どもたちが一緒に過ごしている。
- ・ 外国人と日本人が言語交流できる登録制度のような仕組みがあると良い。
- ・ 子どもたちは日本語を早く習得するが、保護者の日本語習得には時間がかかる。
- ・ 技能実習生として短期間滞在する人と、家族で長く住みたい人への対応をそれぞれ考える必要がある。

② スポーツ施設の市民利用について

- ・ スポーツ合宿で施設を利用される際に市民利用が制限される問題がある。
- ・ 「多様なスポーツ施設の環境を整えて、市民が年間を通して有効活用していくことができるように」という文言を入れてほしい。
- ・ 高齢者等の介護予防の観点からも重要。

③ 災害対応と地域防災について

- ・ 大規模災害時には共助が最も重要。近所中で助け合い、自治公民館などが避難所になりうる。
- ・ 自治公民館に発電機や担架などを備える取り組みを記載し、公民館加入の重要性に繋げてほしい。
- ・ 避難行動要支援者への対応も重要。自力で避難できない人への支援体制を記載してほしい。

④ 自治公民館について

- ・ 自治公民館の会費は地域によって異なる。
- ・ 公民館に入らない理由として、転入時の案内機会の逸失や、地域付き合いの煩わしさ、メリットを感じないなどがある。
- ・ 自治公民館のあり方検討会では、加入促進のための小さな入口を増やす議論をしている。